

平成28年度 学校評議員会 議事録（要約）

1. 開催日時・場所

第2回 平成29年2月13日 15:00~16:20 水沢高等学校 応接室

2 学校評議員に意見を求めた事項

- ア 学校評価アンケートに関する見解
- イ 進路指導における成果と課題
- ウ 部活動の成果と課題
- エ SSH次期申請内容について
- オ 登下校時の交通渋滞解消について

3 学校評議員から出された質問・意見

アに関して

- ・ホームページの管理・運用について
- ・生徒の生活実態調査について
- ・スマートフォンの利用実態について
- ・美化意識、委員会活動の低下について
- ・自転車走行のマナーについて

イに関して

- ・自己評価と客観的データの相関性について
- ・数値目標の妥当性について
- ・低学年指導・早期指導の重要性について
- ・県南地区の医師不足解消について

ウに関して

- ・自由な校風の維持について

エに関して

- ・課題研究の対象を普通科まで広げることについて

オに関して

- ・校門付近の右折レーン設置について
- ・第二体育館脇の道路の拡張の可能性について

4 協議された内容

- 3-ア ⇒ ホームページは一定の権限を持った管理者のみが更新作業を行っている。更新操作自体は困難ではないが、セキュリティの問題があるので、誰でも気軽に更新できる環境には移行しにくい。
- ⇒ 学校評価アンケートとは別に生徒実態把握のための学習アンケートを実施している。
- ⇒ スマートフォンの利用実態についてもアンケート調査を実施している。一時期と比較すれば上手に使いこなしている印象を受ける。中学校段階で持たせる家庭が増えてきているために、生徒が扱いに慣れているようにも思える。
- ⇒ 応援団・運動部は現在でも自主的に雪かきを行っている。応援団は奉仕活動で清

- 掃等も行っている。全般的に委員会活動は他校と比較すると活発だと評価できる。
- ⇒ 正門前の道路にはY字路になっている箇所が一カ所ある。ここが最も危険である。近隣中学校の生徒と登下校時間が重なるために、大混雑している。信号もなく横断する位置も明確に示されていない。県警にも相談しているが、事故防止のための抜本的な解決方法は見いだせていない。
- 3-イ ⇒ 強い相関関係があると推測される。進路指導課の指導がうまく広がっている時は、結果も自ずと現れると考える。今回自己評価が高かったのは、推薦AO入試が順調だったことも一因である。
- ⇒ 進路指導における数値目標の設定は非常に難しいが、可能な限り多面的な指標で評価するように心がけている。
- ⇒ 1・2年とも上位層をセレクトし、特別な指導を行っている(10~20名程度)。良い意味での校内競争を実施している。夏季合宿の実施は部活動の行事が入り込むために困難である。1年生の場合は下位に対する指導に多くのエネルギーを割いている。下位者は手厚い指導を早期に対策を行わないと、自己肯定感が生まれてこない。
- ⇒ 県南地区の医師不足に対する県の直接的な施策はない。県では医学部セミナー(本校主催)等の啓発事業を行っている。また、県医療局は奨学生制度を実施しており、国公立大学レベルの金銭負担で岩手医科大学に入学できるようなシステムを採用している。
- 3-ウ ⇒ 昔に比べれば校則等が厳しくなったのは事実である。しかし、本校が持つ自由な校風は廃れていないと考える。3年生のアンケートの中には「この自由な校風をいつまでも大切にしてください。」のような記述も散見される。
- 3-エ ⇒ いままで培ってきたノウハウを応用すれば、課題研究の対象拡大はさほど難しいことではないと考えている。まだまだ発展途上の段階ではあるが、努力を続けていきたい。
- 3-オ ⇒ 校地内から右折して出ようとする車が最大の問題点となっている。現在は校地内に右折専用・左折専用のラインを設けることを検討している。この場合、校門の門柱を左右に移動し、スペースを確保する必要がある。次年度の予算措置のため現在業者に見積を依頼中である。
- ⇒ 昨年度の評議員会の指摘を受けて、第二体育館脇の道路を反対側まで通す案を検討した。朝夕は可能であるが昼間に一般車両が通行する場合、校地内で事故が起る可能性がある。門扉で昼間は閉鎖することも考えたが、管理運営上困難である。
- ⇒ 近隣商店の駐車場での乗降も検討を行ったが、雪道の場合は対象となる近隣商店の駐車場付近でも渋滞が発生しているのが現状である。これも実現は難しい。